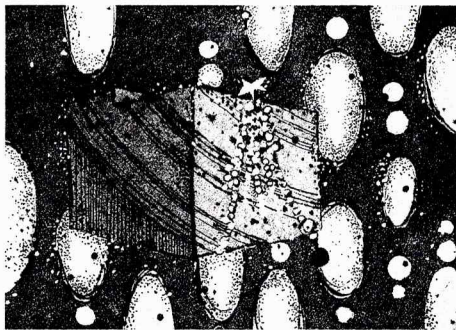


朝日 歌壇 俳壇



岩尾恵都子 (師走II)

永田和宏選

一日をかけて書いてるかも知れぬ三分で読む
 天声人語 (東金山市) 山本 寒苦
 ドナルドは狡くて短気で自己中でそれでも憎
 めぬ アヒルのことだよ (堺市) 芝田 義勝
 来月の詩はもう読めない「さようなら」最後
 の「言葉」は「感謝」であった (広島県府中市) 内海 恒子
 最終の船の着くのは夜の九時岬まわる灯背伸
 びして見る (江田島市) 和田 紀元
 寂しくて怒る人あり悲しくて笑う人あり心な
 らずも (東久留米市) 白井 澄江
 記憶とは真いでありし半田鑲眼鏡の蔓接ぐへ
 ースト塗って (大和郡山市) 四方 護
 パンを乞うガザの人びとの塊のなかの二人の
 少女の圧死 (観音寺市) 篠原 俊則
 桑の実を下ドメとよびて口のなか紫に染め食
 べたり戦後 (松戸市) 猪野 富子
 冬晴に介護が悔悟にならぬよう深呼吸して布
 団干すなり (川越市) 吉川 清子
 なんだっけなかに悩んでいたけれどなかに
 悩んでいたか忘れた (東京都) 中村 容子

【評】山本さん、短いコラムほど書くのは大変。一日どころではないだろう。数秒で読める歌だって作るのは大変な苦。そう思いつつ選歌してます。芝田さん、前トランプ政権の折、アメリカではトランプ顔のドナルドダックの土産を売っていた。

馬場あき子選

初雪の日は幼い頃思い出すぬいぐるみの声聞
 こえてた日々 (富山市) 松田 わ
 秋日和冬毛になりし牧牛の背を撫つれば深き
 ぬくもり (盛岡市) 福田 栄紀
 小雨降る園庭移動動物園濡れし兔を抱きしめ
 る子ら (さいたま市) 齋藤 紀子
 ☆ふくろうの巣箱に雪積むリンゴ園難の声を
 春の待たる (弘前市) 永井 一喜
 リュックから顔出すプラキオサウルスと笑い
 を背負って四歳が来る (山口県) 庄田 順子
 いつの日か人類滅ぶ日の来るとも静かに残る
 この冬銀河 (岡山市) 山本 泰
 帽子にもシャツにも靴にも記名あり遺品整理
 に悲しみ暮る (中津市) 瀬口 美子
 冬夕焼け見てゐる我に綿虫がぶつかつてくる
 雪舞ふやうに (厚木市) 北村 純一
 能登いまもブルーシートの屋根ばかり来る日
 も来る日も時雨に暮る (羽咋市) 北野みち子
 庭隅の枯木に丸き穴を開け熊蜂籠るキウイ咲
 くまで (前橋市) 荻原 葉月

【評】第一首は幼い日の友ぬいぐるみの事を思ふ。その頃は語りかけ、呼びかけられるほどの親友だった。第二首の牛の背のぬくもり、いかにも親愛の深さが伝わる。第五首の恐竜は首長竜。冬の入り口に出会うさまざまな生きものが印象的。

佐佐木幸綱選

☆ふくろうの巣箱に雪積むリンゴ園難の声を
 春の待たる (弘前市) 永井 一喜
 「きれいな」の手話にあふれる美しさ登りき
 たりて御岳の紅葉 (東京都) 西垣 郁子
 気がつけば賑やかだったこの町も移動スパー
 ー待つ町となる (横浜市) 杉本 恭子
 十一月十五日はわが誕生日横田めぐみさんが
 拉致されし日なり (神奈川県) 神保 和子
 AIに選抜された者のみがゴールめざせる
 婚活アプリ (横浜市) 小川 美貴
 未だ見ぬ子らの顔をば思ひつつ理科実験の教
 材つくる (東京都) 斑山 羊
 とれたてのむかご山ほど新米に入れて炊き上
 ぐ朝の幸せ (浜松市) 榎井 雅子
 パーコードを読み取る真似も手際よくお菓子
 屋さんの店主は五歳 (橋本市) 秋月 晶江
 ☆手作りの藁草履はき履き潰し棚田守った祖母
 五十回忌 (東大阪市) 川田 聰子
 図書館は有益資料の書庫なれど無料貸本屋と
 呼ぶ人もおり (津市) 伊藤 智司

【評】第一首、雪の積もる弘前のリンゴ園にあるふくろうの巣箱。童話の世界のような春がやってくるのだろう。第二首、御岳山の紅葉を見ながら手話を交わす人たち。第三首、急激な人口減少で、それまであった常設スーパーがなくなった町。

高野公彦選

そんなことなからうと思いつながら聞く友の
 「歌人に悪人なし」説 (朝霞市) 岩部 博道
 夫には炒飯作つて置いて来たか笑い弾けるパ
 エリア女子会 (水戸市) 椋山佳与子
 トランプさん富豪の起用度の過ぎたアメリカ
 富めど世界疲弊す (東京都) 中野 順一
 伊根湾の遊覧船に鷗群れホバリングして手か
 ら餌取る (宝塚市) 寺本 節子
 ☆手作りの藁草履はき履き潰し棚田守った祖母
 五十回忌 (東大阪市) 川田 聰子
 娘の家の風呂が直るまでわが家は無料銭湯、
 にぎやかな夜 (魚沼市) 磯部 剛
 図書館に入りてまづ心いたむかな新刊書棚に
 防犯カメラ (加東市) 藤原 明
 伝説を語るがごとくバグパイプ奏者はまどう
 タータンチェック (中津市) 瀬口 美子
 ネットには魍魎魍魎が跋扈せり誹謗中傷詐欺
 自己顕示 (岡山市) 別府 慶二
 霜月の軒下彩る実りあり大根の白干し柿の朱
 陸美 (気仙沼市) 及川 陸美

【評】1首目、嬉しくなる説を冷静に聞きつつ、やはり嬉しい気分か。2首目、女子会は本当に楽しそうですね。3首目、トランプ氏の政治的行動への疑念を詠む。4首目、丹後半島を観光している一場面。鷗たちが手から餌を取るの嬉しい。

短歌時評 歴史を書き留める手

小島 なお

「なにを書くか」ということと同じく
 らい重要な意味を持つのは「だれが書く
 か」ということ。そこに歴史や史観が書
 かれていく場合とは異なる。

『はじめの近現代短歌史』(草思社)が刊行された。著者は平成九年生まれの高良真実。作歌、評論両輪の気鋭の作者である。短歌史を学ぶには、篠弘『現代短歌史』、三枝昂之『昭和短歌の精神史』などの良著がすでに存在する。しかし平成以降、バブルが崩壊し、イン

ターネットが普及し、東日本大震災が発生した。歌壇の場のみならず、作者意識も変容し続けている。本書では、昭和以降の歌壇史のパートを「ポストニューエープ」と口語の深化)や「東日本大震災後の議論」など文体や時事のトピックを挙げながら、多面的に分析してゆく。

本書の最大の価値は昭和二十年代半ばに端を発した女歌論を軸に「倭万智以降の女歌論」「テン年代後半以降のフェミニズム」と、女性歌人と作品をきめ細かに取り上げている点にある。

設定をいじって元に戻せないお母さん
 元に戻してあげる 乾 遥香
 ゲーム上の「設定」は社会的ジェンダーの役割ヘトレスされる。「元」がどこにあるかを考える運動がすなわちフェミニズムだろう。歴史は多く歌壇の中心にいた男性によって書かれ、作られてきた。女性歌人の手によってここに新しい短歌史が書かれた。一方で、短歌を愛する者にとっては歴史に刻まれた秀歌を愛する者にとってもある。これまでの短歌史への批判と敬意に揺れる筆致は、多くの歌人の思いに重なるはずだ。

中川佐和子著「尾崎左永子論 冷えた驕と鮮烈な朱色」 佐藤佐太郎を師として始まった尾崎の歌歴や魅力をインタビューや秀歌鑑賞を交えて伝える一冊。(角川書店・3080円)
 第1回定家賞 短歌研究社主催。橋本英さんの第3歌集『薄明暮』(短歌研究社)に。次席は榊原紘さんの「koro」(書肆侃侃房)。第4回で終了した塚本邦雄賞に代わる新賞。

☆は共選作。入選作はデジタル版などにも掲載・収録し、記事やSNSで引用することがあります。投稿は未発表の自作のみ、二重投稿不可。選者が添削する場合があります。郵便での投稿は無地のほか1枚に1作品、横に住所、氏名、電話番号を明記。〒104-8661 晴海郵便局私書箱300、短歌は「朝日歌壇」、俳句は「朝日俳壇」へ。ネットからも投稿でき

風信